

富山市総合計画審議会 第2回部会 指摘事項と対応

番号	部会	指摘事項	対応
1	都市・環境	「富山市の現状 ①次代を拓く人づくり」の最後、「取り組まれています」には違和感がある。	「各地域の公民館では・・・取り組んでいます」に変更する
2	都市・環境	「基本理念」及び「基本目標」が重要だと思うが、現在の素案は富山市以外と比べても大差がない。総合計画として、今後10年で取り組むべき事項の優先順位をどう考えるかが重要である。	「基本理念」及び「基本目標」については富山目線で職員が検討してきたものである基本構想では市のすべての行政分野について述べているわけではなく、10年後の都市像を描き、その実現のために優先的に実施すべき政策を掲げるものである。具体的な施策の優先順位については基本計画、実施計画の中で検討する
3	都市・環境	この10年、環状線の整備、施設の配置が進められる中で、「環境未来都市」としての認知も進んできた。今後10年は「環境未来都市」に合ったライフスタイルが浸透し、世界に発信できるような都市に成長する段階を目指すべきではないか。「環境未来都市」は都市ではなく、環境、人々の生活を含めて取り組んでいくことが重要である。市民を含めて広い意味での環境を考えていくべきである。全てを貫く理念として、「環境未来都市」を打ち出してはどうか。	総合計画は環境未来都市計画をはじめとした各個別計画の上位計画となるものであり、「環境未来都市」が全分野を貫く理念とすることは難しい また、「環境未来都市としての展開を含め、「時代の先駆けとなる」ことを想定した都市像としている
4	都市・環境	「基本理念」には「個性(誇り)を磨く」とあるが、その主語は何か。誰の個性を指しているのか、個人としての個性なのか、富山市の個性を伸ばしていこうとしているのかが曖昧である。「人・まち・自然」の順序も本当にそれでよいのか、気になっている。	文脈や表現の仕方によって主語を省略しているところがあるが、市の総合計画であるので、省略されている主語は基本的には「市」である 「誇りを高め」の主語は、富山市民の総体としての富山市である 都市の主役は市民であり、その市民が活動するのがまち、憩うのが自然となる
5	都市・環境	「基本理念」に基づき「都市像」が描かれるはずだが、都市像では「個性・誇り」といったイメージがどこにも書かれていない。施策や目標値にも共通する基本理念とすべきではないか。	都市像について、検討する
6	都市・環境	「安心(安らぎ)・個性(誇り)・希望(輝き)」というキーワードの設定は適切なのか。富山市に馴染まないように思う。	説明にあるとおり、現行計画の理念の先にあるものとして基本理念を示している基本理念を「安らぎ・誇り・希望」にする (人・まち・自然の共生から「安らぎ」を広げ、広域的で多様な交流から「誇り」を高め、新しい活力と魅力の創造から「希望」を未来につなげることを基本理念とします。)
7	都市・環境	安心・安全が一番重要ではないか。市民の安心や安全がなければ活力や交流のある富山市は表現できない。	安心からくる「安らぎ」は基本理念の1つとしている 一方、基本目標や政策分野では、安心や安全と活力や交流は並列の関係にある
8	都市・環境	人材・暮らしの基本目標に子どものことしか書かれていない。	「すべての世代が学び、～」、「いつまでも元気で自立し～」と、子どもから高齢者までのあらゆる世代を指す記述をしている
9	都市・環境	「基本目標(2)安全で持続性のある魅力的なまち」では、「自然にやさしく」の次に「安全・安心なまちづくり」が来ており、また「自然環境を活かした」と自然に関する事項が行ったり来たりする。順番を整理してはどうか。	「基本目標(2)」の文章を整理する
10	都市・環境	「施策の大綱」には「持続性」についても言及されているが、施策の中身には持続性に関する記述がなく、何を以て持続性なのかが分かりにくい。	「施策の大綱(2)」にある4つの政策すべてが、都市の持続性に関しての主要な政策であり、「基本目標(2)安心・安全で持続性のある魅力的なまち」に「都市としての持続性を高めるため」を加筆する
11	都市・環境	「基本目標(3)」については、「歴史・芸術・文化」ではなく、「歴史・文化・芸術」の順がよい。歴史・文化を再認識したうえで観光まちづくりを進めていく必要がある。	「歴史・芸術・文化」を「歴史・文化・芸術」の順に変更する
12	都市・環境	「施策の大綱(2)政策1」を見ると、防災に偏っている印象も受ける。人為的災害は環境によるところも大きく、防犯についても記載してはどうか。犯罪の発生率は富山県内で富山市が一番高い。防犯に強いまちづくりを進めていけるとよいのではないか。	主要施策(4)を「防犯・交通安全対策の充実」に変更する

13	都市・環境	森林機能の維持は、集中豪雨などによる自然災害の発生防止など、非常に重要な役割がある。また、森林を整備することで、観光施設としても期待できるため、総合計画に位置付けてほしい。	「施策の大綱(2)政策3 潤いと安らぎのあるまちづくり」に森づくりの文言追加 また、「暮らしに安らぎを与える森づくり」を主要施策として追加
14	都市・環境	P.19～20の「施策の大綱(2)政策4 自然にやさしいまちづくり」に書かれている施策はハードに偏っている印象を受ける。環境教育の推進についても記載してはどうか。	施策(3)を「環境負荷低減への取組」を「市民・企業・行政の協働による環境負荷低減への取組」に修正する
15	都市・環境	国際交流の観点を含めてはどうか。情報発信に加えて受入のための基盤整備も必要になる。価値観の違う人を受け入れることについても、どこかで言及していただきたい。「わが国を取り巻く状況 ④グローバル化の進展」に「人の流れに対応した環境づくり」を加筆するとよい。 P.21の「施策の大綱(3)政策2 観光・交流のまちづくり」に国際交流に関する施策を追加してはどうか。	「④グローバル化の進展」は産業振興の文脈として整理しているため、「国際交流」はなじみにくい 「施策の大綱(3)政策2 観光・交流のまちづくり」について「国内外を問わず」の文言及び施策として「多様な交流の促進」を加筆する
16	都市・環境	題目と内容の整合、記載する順序を含め、全体的に文章を精査する必要がある。	整理して修正する
17	都市・環境	一般的に、強靱化と自然にやさしいということは両立が難しい概念である。両立なのか、共存させていくのか、どういった方向性を目指すのかははっきり書いた方がよい。	それぞれに留意して、強靱化と自然へのやさしさを並行的に進めることになるほかの施策も同様である
18	協働・連携	「富山市の現状⑤共生の社会づくり」の中で、人口減少・高齢化に伴う地域コミュニティ機能への影響について記載されているが、もっと強い危機意識を表明してはどうか。町内会もすでにほとんど機能していない中で、10年後には崩壊しているだろう。	現時点で、市全域で町内会が機能していないということはない 「懸念されます」はここだけに使用しているフレーズで、危機感の表明している
19	協働・連携	市内には町内会をはじめ様々な組織があるが、そうした組織に対するアンケート調査を実施したことはないのか。現場の組織がどう考え、どう市の施策を受け止めているのか、今後の意向など必要な意見を聞くことが重要だと考えている。 基本構想で「コミュニティの強化」を掲げる場合には現状の把握も重要である。今回の基本構想の検討としてやるべきかということ必ずしもそうではない。施策に反映できるタイミングで、アンケートや意見の集約など、問題の把握に必要な調査を実施していただきたい。	12/8に自治振興連絡協議会正副会長会議を実施し、各ブロックの自治振興会長に町内会の現状についてヒアリングをおこなった
20	協働・連携	「主要課題 ②少子高齢化と人口減少への対応」の中で地域特性に応じた対策・まちづくりについての記述があるが、他の項目に含む方がよい。	当該記述を「主要課題⑤集約化(拠点化)とネットワークの整備」に移す 「主要課題 ②少子高齢化と人口減少への対応」では、「福祉や教育の分野に限らず、あらゆる分野において安心して子どもを産み育てられる環境を整備し、出生率の向上を図るとともに、大都市圏に転出する若年層が地域に戻れる環境を整備するほか、移住者、転勤者など大都市圏等からの転入者の定住、交流の拡大などが求められます。」として、多様な対応について言及し、さらには農村部や中山間地域等での人口減少による課題を加筆する
21	協働・連携	「主要課題⑤集約化(拠点化)とネットワークの整備」には、「あらゆる世代が自動車に頼ることなく歩いて暮らせる社会」との記載があるが、この文章をそのまま読むと富山市が全て歩いて暮らせるのではないかという印象を受ける。富山市には様々な地域性があり、都市的な地域と集落的な地域の違いを踏まえた表現とするべきではないか。	富山市中歩いて暮らせるということではなく、団子と串のコンパクトなまちづくりの考え方であることから、主要課題⑤「あらゆる世代が自動車に頼ることがなく歩いて暮らせる社会を実現するため」から「できるだけ自動車に頼ることがなく歩いて暮らせる生活環境の形成を目指し」に修正する なお、「施策の大綱(2)政策2コンパクトなまちづくり」の「施策(4)地域の生活拠点の整備」は公共交通の利便性の高い集落部を含めて想定している
22	協働・連携	「主要課題 ⑤集約化とネットワークの整備」に関して、現状ではキャッチフレーズとしての「公共交通」が少なすぎるのではないか。	「公共交通」については、「鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、」としている
23	協働・連携	「主要課題 ⑦産業活力の強化」に関連して、創業と起業の違いが分からない。	基本的には同じ意味だが、一般的に双方の単語が使用されることから、行政では併記して使用することがある

24	協働・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・「富山らしさ」という言葉はどういった意味合いか、明確にする必要があるのではないか。 ・富山らしさの一つに「葉の富山」がある。薬草、薬膳をキーワードにしてはどうか。 	<p>「主要課題⑨伝統文化の継承と新たな文化の創造」において、「質実さと進取の気性」をはじめとする富山の文化的アイデンティティ(富山らしさ)としている 「葉の富山」は基本構想では「など」に含むこととし、具体的な施策は基本計画・実施計画で検討する</p>
25	協働・連携	「主要課題 ⑨伝統文化の継承と新たな文化の創造」に関連して、質実さと進取の気性の他に富山らしさは考えられないか。	「質実さと進取の気性」をはじめとする」とした表現にしており、これらが富山の文化的アイデンティティとして、「富山らしさ」であると整理している
26	協働・連携	同じ人たちが力を合わせるの単なる共同社会であって「協働」ではない。協働の本質は、異なる種の力を組み合わせるところにある。中山間地域における世帯、人口の減少といった危機的な問題と、コミュニティの強化の問題は、異なる種の要素を含んでいる。	「市民との協働」と「コミュニティの強化」は別のもので捉える(主要課題⑩の記述を修正) また、「コミュニティの強化」とは別に、「施策の大綱(2)安心・安全で持続性のある魅力的なまち」で、「中山間地域の振興」を主要施策とする
27	協働・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの強化については大きく二つの問題がある。一つは、今ある活動を活性化させること。もう一つは、すでにコミュニティが崩壊している場合に新しいコミュニティのあり方を検討することである。「主要課題⑩市民協働による共生社会づくり」にそうした観点を具体的に書き加えてはどうか。コミュニティの定義や単位そのものを見直す必要があるかもしれない。 ・コミュニティは広義であり、何でもかんでもコミュニティでくっつくと、かえって見通しが悪くなるかもしれない。 	「主要課題⑩市民協働による共生社会づくり」に「今ある活動の活性化」と「新しいコミュニティの構築」について加筆する 具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
28	協働・連携	交流という観点をもう少し打ち出してもよいのではないか。中心市街地と過疎地域にはそれぞれ異なるコミュニティがある。中心市街地と過疎地域が交流することで新たな取組も生まれる。最近では、集落内の交流も少なくなっている。単にイベントを開催するだけでなく、地域として朝から晩までお祭りのように楽しむ動きが必要。	「交流」は「基本理念」の説明にある通り、キーコンセプトの1つとして位置付けている 「主要課題⑩市民協働による共生社会づくり」に「交流」を加筆する なお、「施策の大綱(2)政策2コンパクトな(拠点とネットワークの)まちづくり」には中心市街地と過疎地域の交流も含まれる 具体的な施策については、基本計画・実施計画で検討する
29	協働・連携	「基本目標(4)共生社会を実現し誇りを大切にす協働のまち」とあるが、地域ごとのコミュニティの強化とともに、広域での市民協働のネットワークも必要である。様々な人材が富山市の中でネットワークをつくり、力を発揮するという整理をしてはどうか。	「主要課題⑩市民協働による共生社会づくり」に「市民による広域的な協働」の言葉を加筆する なお、具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
30	協働・連携	富山市は全体的に付き合いの悪い地域である。知らない人をすぐに仲間にしてしまうような雰囲気作りが必要である。イベントが開かれ、出会いが生まれ、これまでは異なる力が発揮されていく、そうした姿が地域社会の理想ではないか。	「基本理念」の説明において、「広域的で多様な交流から「誇り」を高め、新しい活力と魅力の創造から「希望」を未来につなげる」としている 具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
31	協働・連携	富山市は多様な地域から成り立っている。富山市が合併した当時は、「海から3,000mまで」という言い方もあった。基本構想ではそうした多様性にもっと触れるべきではないか。	「都市像」の説明で「多様な富山の魅力」とするなど、全文で15か所において「多様」の言葉を用いていたが、「富山市の現状」や「合併10年」、「主要課題」などで、さらに記述を加筆する
32	協働・連携	北陸新幹線は、日本初の環状新幹線となる可能性もある。環日本海の中心、日本の中心としての誇りを持つことが重要ではないか。	北陸新幹線の敦賀以降の延伸時期は示されておらず新幹線の環状化は10か年構想では記述しない なお、「都市像」の説明の中などでは「日本海側有数の中核都市」としている
33	協働・連携	富山らしさは健康寿命日本一の薬都であることではないか。そのために薬草・薬膳に土づくりから取り組む必要がある。	健康づくりは重視しており、「健康寿命日本一」を目指すことや「薬都」も「富山らしさ」ではあるが、その他、上記のように様々な「富山らしさ」がある 「都市像」での「富山らしさ」の記述は、多様な「富山らしさ」を活かして、「都市像」を実現するための各施策を展開していくという概念的な表現である
34	協働・連携	公共交通を軸としたコンパクトシティを進めていくということだが、公共交通にはまだ不足があると感じている。交通弱者に対する施策が必要。	「施策の大綱(2)政策2コンパクトなまちづくり」の「施策(2)歩いて暮らせるまちづくり」の中には、「交通弱者対策」が含まれるが、「交通弱者」という言葉には2つの意味があることから、この言葉は使用しない 具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
35	協働・連携	富山市は、地域にある素晴らしい素材をまだ活かさきれていない。コンパクトシティにしても、まだコンパクトが実現されたとは言えない。ブラッシュアップは必要だろう。	引き続き主要な政策として「コンパクトなまちづくり(拠点化とネットワーク整備)」掲げている

36	協働・連携	P.17の将来都市構造に関して、「一定水準以上のサービスレベル」とあるが、一定水準とは何か。	すべての鉄軌道6路線及び幹線バス24路線((1)運行頻度の高いバス(2)地域生活拠点と都心を結ぶバス(3)主要施設と都心を結ぶバス)のことをいう
37	協働・連携	過疎地域であっても、暮らしの場としての価値があるからこそ住む人がいる。そうした地域をきちんと支える仕組みをつくるべきである。	現状や主要課題で過疎地域や中山間地域についての記述を加筆する 「施策の大綱(2)政策3 潤いと安らぎのあるまちづくり」の「施策(4)中山間地域景観の保全・形成」を「中山間地域の振興」に修正する 具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
38	協働・連携	レジリエントシティ戦略等との関係はどうなっているのか。基本構想の中でも、レジリエントシティについて触れた方がよいのではないかな。	来年度、総合計画と平行して「レジリエンス戦略」を策定することになり、上位計画となる総合計画・基本計画には、レジリエンス戦略の考え方を盛り込んでいくことになる 「レジリエントシティ」とは、人口減少や災害等の複数分野にわたって市の対応力を強化することであり、方向性は「富山市の現状」や「主要課題」、「施策の大綱」等に記述しているが、「レジリエントシティ」の言葉は基本構想では使いにくい また、「レジリエントシティ」は特定の概念として捉えられる可能性があるため、より一般的な表現として必要などころでは「強靱」のフレーズを使用している
39	協働・連携	コミュニティをいかに機能させるかということについて、今後施策のレベルで考えていく必要がある。コミュニティには地域のつながりだけでなく、同年代の人のコミュニティ、婦人会のようなものもある。いかにそうしたつながりを強くしていくことができるか、行政がいかに関わっていけるかということを検討する必要がある。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
40	協働・連携	中山間地域では施設一つを維持するのに苦勞をしている。施設はコミュニティにとっても重要な場であり、施設の維持管理に支障をきたすようなことがあると困る。効率性は使用頻度だけで計れるものでもない。現在様々な自治体で公共施設の検討が行われているが、集約化も含めて検討していく必要がある。実施計画にはそうしたことも記載いただきたい。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
41	協働・連携	町内会では高齢化が進んでおり、地域活動を展開する見通しを立てることもできない。新しい何かを考えなければならないという局面に来ていると感じる。地域で活動するボランティアと行政の考え方をいかにすり合わせていくかも、重要な課題である。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
42	協働・連携	学費の無料化など、住みやすい環境を整えていくことで若い世代が増える。人口の維持には若い世代の増加が必要である。雇用の創出についても同時に取り組んでいく必要がある。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
43	協働・連携	最近ではシェアハウスも見られるようになってきているが、高齢者と若者が一緒に生活できるような暮らしの形を考えていけるとよい。サロン、家庭菜園なども含めて活動を広めていけば、コミュニティも自然と広がっていく。子育ても含めて実現されるようになっていくのではないかな。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
44	協働・連携	基本計画や実施計画をとりまとめる際には、コミュニティ、公共施設などの問題も含めてすでにうまく取り組んでいる地域から学ぶことも重要である。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
45	協働・連携	人口増加のためには、20代での結婚・出産支援と学費の支援が重要ではないか。どちらも生涯学習・生涯現役の実践が大切である。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
46	活力・交流	「わが国を取り巻く状況」から芸術・文化の文言が消えてしまって悲しい。もう少しやわらかな言葉や文章になるとよいのではないかな。	「わが国を取り巻く状況」で「文化・芸術に対する機運の高まり」を述べるのは唐突感があるとの意見から修正したものであり、タイトルを「⑥価値観や行動様式の変化」に変更しているが、記述内容は、芸術文化を含め、従前のものがベースとなっている なお、文中に「様々な活動機会の充実」を加筆する

47	活力・交流	「富山市の農村像」を打ち出してはどうだろうか。自然と都市が一体となったところが富山市のよいところであり、魅力だと思う。地元の野菜がすぐ手に入るということを含め、農村型の地方都市として、富山市をアピールしていけるとよい。富山市民自らが農村の必要性和価値を認識することも重要である。都市と農村が混在していることが魅力的なのだと思う。富山市の地方版総合戦略に「富山の自然を楽しむ」という項目があったと思うが、そうした部分を咀嚼し、総合計画にも取り入れてはどうか。	「農村部」という言葉を何箇所かに盛り込み、富山市の現状については、「富山市の現状④高次都市機能と産業の集積を活かした活力づくり」で加筆する 施策については、「施策の大綱(2)政策3潤いと安らぎのあるまちづくり」や「(3)政策1新たな価値を創出する産業づくり」、「(4)政策2市民の誇りづくり(ブランディング等)」の中で読むことが考えられ、基本計画・実施計画で検討する
48	活力・交流	国では女性の活躍推進を大きく掲げているが、基本構想の中にはあまり女性に関する文章が出てきていない。基本構想に入れ込むことは難しいかもしれないが、検討してはどうか。	必要性は「主要課題③すべての世代の健康・安心な生活の実現」及び「主要課題⑦産業活力の強化」で記述している 女性の活躍につながる項目としては「施策の大綱(3)政策3いきいきと働けるまちづくり」や「(4)政策1市民協働による共生社会」あたりとなるが、具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
49	活力・交流	産業やビジネスの視点で観光を考えることも重要である。ビジネスにならなければ一時のにぎわいで終わってしまう可能性があるし、地域の活性化にもつながっていない。案内表示などのインフラ整備も重要だが、持続的な取り組みとしていくためには、観光をビジネスとして成り立たせていく必要性を認識しておくことが重要である。	「主要課題⑧交流人口の拡大と受入体制の整備」の「実効性のある観光施策の推進」に「持続的で実効性のある産業の創出につながるような」を加筆する 「施策の大綱(3)政策2観光・交流まちづくり」に「観光産業の活性化」の記述を加筆する 具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
50	活力・交流	・「主要課題⑨伝統文化の継承と新たな文化の創造」について、富山県は石川県と比較して“シビックコンプレックス”を持っているように感じる。 ・富山市の文化とは、新しいものを創り出すことである。人材を育てて送り出すことも富山市の特徴である。売薬などの伝統産業、ガラスなどの現代産業、ジャズなどもからめ、若い人にも富山市の魅力や強みを伝え、シビックプライドを醸成することが重要である。	石川県との比較ではなく、富山の矜持として「文化的アイデンティティー(富山らしさ)の再確認」を打ち出し、富山の先進性は「都市像」で表現している また、主要課題⑩でシビックプライドの醸成について記載している
51	活力・交流	地域のことをあまりよく知らないということが様々な課題の根幹にある。順番にあまり意味はないと思うが、「主要課題⑩シティプロモーションの推進とシビックプライドの醸成」を1番最初に掲げてはどうか。	ひとつづくり、まちづくり、活力づくり、そしてこれらの推進するための絆づくりの流れを想定している 現状→主要課題→基本理念・都市像→基本目標→施策の大綱の流れの中で各項目を順序付けている
52	活力・交流	消費者と生産者の結びつきはマイナスと捉えられてきたがむしろプラスの魅力としていけるのではないか。アメリカでもCSAという消費者参加型農業が進められている。農村型の地方都市として富山市をアピールしていけると良い。	「施策の大綱(3)政策1新たな価値を創出する産業づくり」、「(4)政策2市民の誇りづくり(ブランディング等)」等で考えていける施策である 具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
53	活力・交流	カタカナが多い。レジリエンスやシビックプライド、シティプロモーション等、丁寧に注を付けていただきたい。	用語説明の項目を設ける。
54	活力・交流	農村では新しい動きも出てきている。6次産業化や農家民宿の事例も出てきている。高山線にはたくさんの外国人が乗車している。外国人も農村に行って様々な体験をしたいということのようだ。こうした今日的な動きについても、とらえていただきたい。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
55	活力・交流	産業振興に向けては新たな企業誘致も必要だろうが、高校や大学を卒業後県外に転出し、そのまま戻ってこない人も多い。若者には都会への憧れもあり、なかなか難しいのかもしれないが、地元産業の魅力のアピールすることが重要である。	若年者の県外流出については既に記述しており、具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
56	活力・交流	奥能登では農業等の分野では若者が戻ってくる例もあるらしい。農業の経営者が地域に貢献していることがよく見えており、そうした活動を見て若者が戻ってきているようだ。産業だけでなく、コミュニティの存在が地域に戻ってくる条件の一つになる。	若年者の県外流出については既に記述しており、「ふるさと教育」も含め、具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
57	活力・交流	文化的なテーマで国際大会を開催してはどうか。国際大会があれば注目が集まり、ガラス産業などへの認識も高まると考えられる。既存の美術館なども活用し、富山市中心部で人が集まるようなイベントができるとよい。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する

58	活力・交流	「わがまち富山」や「富山らしさ」、「富山」と言った時に、富山市の人は富山市を想像するだろうが、富山市以外の人は富山県をイメージしてしまう。もっとはっきりと「富山市」を打ち出せるとよいのではないか。	富山市の総合計画であり、あえて「市」を付記する必要はないものとする 基本計画・実施計画での検討課題とする
59	活力・交流	市民自ら何かに取り組むという視点があってもよいのではないか。市民が主体的に動くためのサポートをしていくという視点があると良い。 特に福祉や観光の分野では、市民の自発的な取り組みを行政としていかにサポートするかが重要なポイントになる。地域での起業・コミュニティビジネスもサポート体制がなければ生まれてこない。情報収集も含め、市民の活動の芽を育てる体制づくりに取り組んでいく必要がある。	「主要課題⑩市民協働による共生社会づくり」で「民間活力を活かしたまちづくり」が必要であるとしている また、「施策の大綱(4)政策1市民協働による共生社会づくり」の中で「市民主体のまちづくり」を記述している 具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
60	人材・暮らし	「わが国を取り巻く現状⑥」で、文化・芸術が「価値観や行動様式の多様化」に変わったことは極めて今日的な修正内容だと感じた。多様化を前提に地域づくりに取り組み、一人の人が仕事をたくさん背負わず、皆が楽しく参加できるような地域づくりのシステムを考えていく必要がある。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
61	人材・暮らし	「富山市の現状⑤共生の社会づくり」に自治振興会についての記述があるが、自治振興会や地区センターはコミュニティだけでなく、防災・防犯、児童福祉、組織間の情報共有など、様々な機能を果たしている。高齢者の集まる場としても非常に重要であり、もっと強調した表現にしていきたい。	自治振興会や地区センターの重要性については十分に認識している ただし、「富山市の現状⑤共生の社会づくり」は、地域のコミュニティ機能について記述している部分であり、地区センターの広範な役割についての記述は避けたい
62	人材・暮らし	駅の開発が終われば、今後10年間で大型の公共開発も少なくなっていくだろう。あえて歳入・歳出の状況図を載せなくてもよいのではないか。	合併10年の検証として歳入・歳出の計画と実績の乖離を示す状況図を載せている 将来の財政計画は基本計画で載せることになる
63	人材・暮らし	富山市は広く、それぞれの地域で抱えている問題が全く異なる。それぞれの地域で人を呼ぶ仕掛けを考えていく必要がある。	今回の修正で、「主要課題」には、各地域特有の課題がある旨の記述を加筆する 具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
64	人材・暮らし	・地域内で人を増やすことは難しく、いかに外から人を呼んでくるかが重要になる。小さい村では人口が少し増えただけでも大きなインパクトがある。若い人が魅力を感じ、戻ってこられるような環境づくりが必要である。 ・大都市圏からの転入について、ノーベル賞を受賞した梶田さんの話を聞くと、研究関係など何か目的がないと、漠然と人を呼ぶことは難しいのではないだろうか。	「主要課題①多様な人材の育成と地域への定着」、「②少子高齢化と人口減少への対応」において問題提起し、施策の大綱では、教育、雇用、市民の誇り等で対策を検討することとして、既に記述している 具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
65	人材・暮らし	「主要課題⑧交流人口の拡大と受入体制の整備」について、新幹線開業のみが取り上げられているが、市内には北陸自動車道ICもあり、書き出しの表現としていかがなものか。	人的交流においては、新幹線の整備効果は高いものと想定される 前段では、北陸新幹線の開業効果による人的交流の拡大を記述し、後段では、鉄道・飛行機による大量輸送を例示しているものである
66	人材・暮らし	健康寿命についてよく耳にする。今後は高度医療も重要だが、老人ホーム、ケアハウスに入居する高齢者もおられる中で、地域に密着した医療と高度医療との連携についても考えていく必要があるのではないか。これからは「チームケア」という連携による医療・介護のあり方を検討することが重要である。	「施策の大綱(1)政策3誰もが自立し安心して暮らせるまちづくり」に含まれる 具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
67	人材・暮らし	市が描く強い都市像が隔々の人に理解されなければ、どうしても街中ばかりに税金を使い、中山間地域は取り残されてしまうのではないかという悪い印象を与えてしまう。住民はまだ本質を理解していない。市民とともに頑張っていくましようという思いを広めていけるとよい。	今回の修正で、現状や主要課題に中山間地域等に関する記述を増やすとともに、「施策の大綱(2)政策3潤いと安らぎのあるまちづくり」に「森づくり」と「中山間地域の振興」を加筆 また、「総合計画の位置付け」や「基本目標」に「市民との協働」を記述している
68	人材・暮らし	子どもたちに、地域の一端を担っているのだという意識付けをしていくことも必要ではないか。意識付けが郷土に残る子供たちを育むことにもつながるのではないか。	「施策の大綱(4)政策2市民の誇りづくり」で、「ふるさと教育の推進」について検討することとしている 具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
69	人材・暮らし	資料全般的に、「必要です」、「求められています」、「見込まれます」というように語尾の表現がばらばらになっている点が気になる。	それぞれの意味で言葉を使い分けている また、同じ語尾が続くと単調な印象を与えるため表現をかえている面もある

70	人材・くらし	<ul style="list-style-type: none"> ・富山市で育てた人材が都心部に出て行ってしまう恐れもある。熱心に育てた人材が帰ってきてくれないとなると、将来的にも厳しい。 ・学習機会として、県外で様々なものと競ったり交流したりすることは重要だが、富山市には魅力のある人生の送り方があるのだということを強調する必要がある。 	若年者の県外流出については既に記述しており、具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
71	人材・くらし	担い手の減少が言われているが、どのように次の世代に引き継いでいくのかを考える必要がある。現在取り組んでいる様々な活動も、このままでは次の世代につながっていかないのではないか。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
72	人材・くらし	お祭りには様々な人が参加している。傍から見ていると、楽しめることがよいのだろうと思う。苦しいことばかりでは続かないので、楽しみつつ学ぶということが必要だろう。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する
73	人材・くらし	女性が正規で就職できるところがあまりない。選択肢としては教員や公務員くらいで、これでは女性が戻ってこられないのではないかと感じた。男性だけが戻ってくると、結婚する割合もますます低くなってしまう。	意見として認識する
74	人材・くらし	富山市はまだ十分に観光地の開発が行われているわけではないが、金沢市とは違う産業観光もある。そうした点についても強調しなければならないのではないかと。	具体的な施策は、基本計画・実施計画で検討する